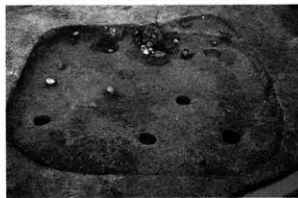




Ⅲ-65 24区 (南より)



Ⅲ-66 24区 (西より)



Ⅲ-67 6SB1



Ⅲ-68 6SB1 遺物出土状況



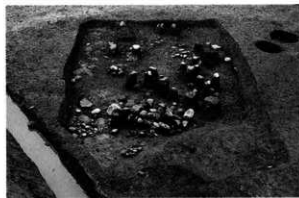
Ⅲ-69 6SB1 カマド



Ⅲ-70 6SB1 土坑



Ⅲ-71 6SB2



Ⅲ-72 6SB2

PL17 権現堂遺跡調査区・住居址



Ⅲ-73 6SB3



Ⅲ-74 6SB4



Ⅲ-75 14SB1



Ⅲ-76 14SB4



Ⅲ-77 14SB2カマド



Ⅲ-78 14SB3



Ⅲ-79 14SB4



Ⅲ-80 14SB4カマド

PL18 権現堂遺跡住居址



Ⅲ-81 14SB5



Ⅲ-82 14SB5カマド



Ⅲ-83 33SB1



Ⅲ-84 34SB1



Ⅲ-85 33SB4土器出土状況



Ⅲ-86 24SB1



Ⅲ-87 24SB2



Ⅲ-88 9ST1

PL19 権現堂遺跡住居址・掘立柱建物址



Ⅲ-89 30小穴群 (南より)



Ⅲ-90 30小穴群 (西より)



Ⅲ-91 30-2小穴群



Ⅲ-92 16SE1



Ⅲ-93 26SE1



Ⅲ-94 30SE1



Ⅲ-95 30SE1



Ⅲ-96 30SE2

PL20 権現堂遺跡小穴群・井戸址



Ⅲ-97 30SE3



Ⅲ-98 30SE4



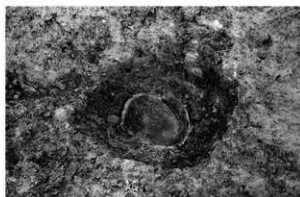
Ⅲ-99 24SK14 (SE)



Ⅲ-100 27SK1



Ⅲ-101 16SK1



Ⅲ-102 25小穴2



Ⅲ-103 27SK5



Ⅲ-104 30SK3

P L21 権現堂遺跡井戸址・土坑・小穴



Ⅲ-105 26小穴6



Ⅲ-106 34SK1



Ⅲ-107 24SK4



Ⅲ-108 24SK8



Ⅲ-109 24SK12



Ⅲ-110 24SK20



Ⅲ-111 24小穴40



Ⅲ-112 30SK1

PL22 権現堂遺跡小穴・土坑・竪穴状遺構



Ⅲ-113 30SX2



Ⅲ-114 3SD1



Ⅲ-115 3SD7~9



Ⅲ-116 11SD群



Ⅲ-117 27SD群



Ⅲ-118 28SD4



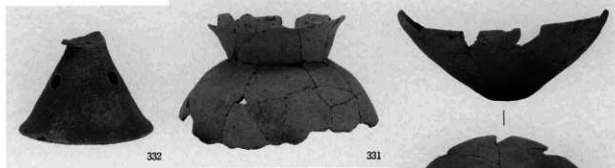
Ⅲ-119 34SD1・2



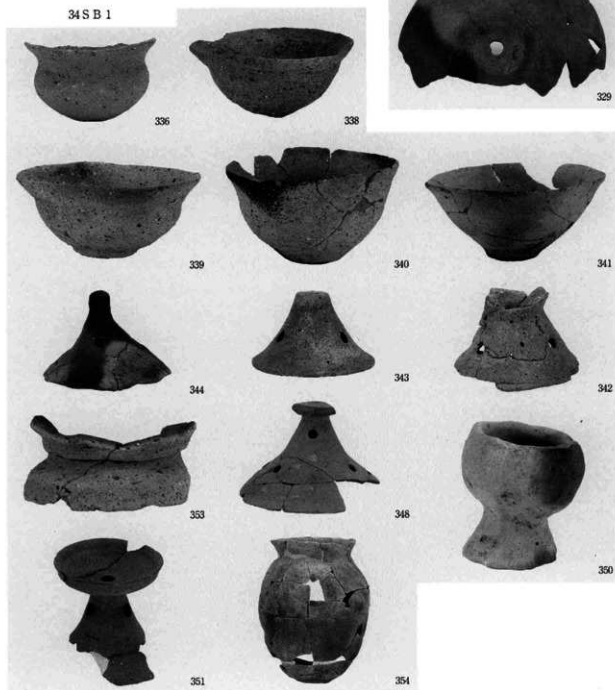
Ⅲ-120 33SD3

PL23 権現堂遺跡堅穴状遺構・溝址

6 SB 1

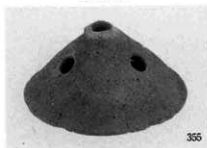


34 SB 1



P L 24

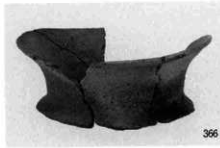
24SK 6



24SK 8



3SD 9



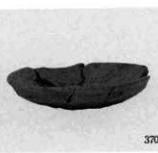
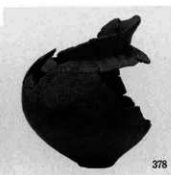
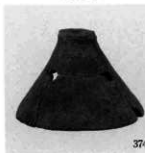
24SK 20



24SD 6



3SD 8

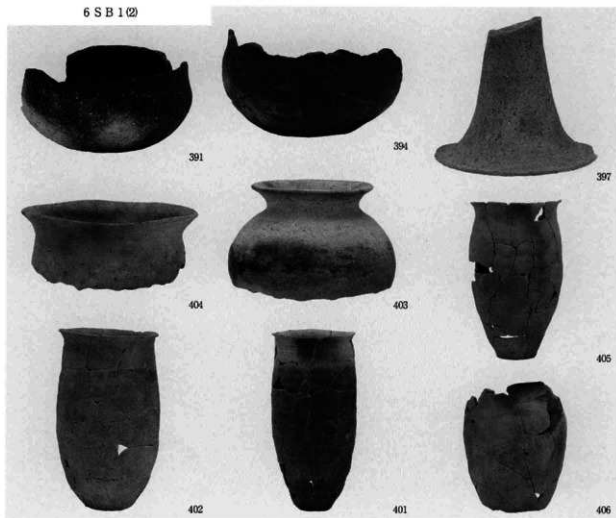


6SB 1(1)

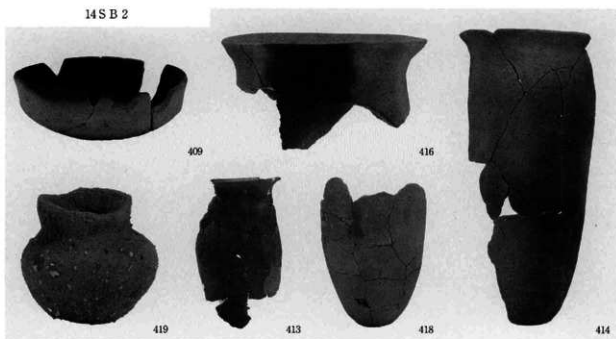


P L 25

6 SB 102



14 SB 2

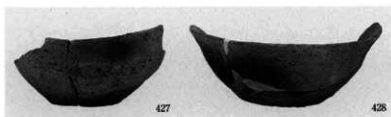


P L 26

6 SB 2



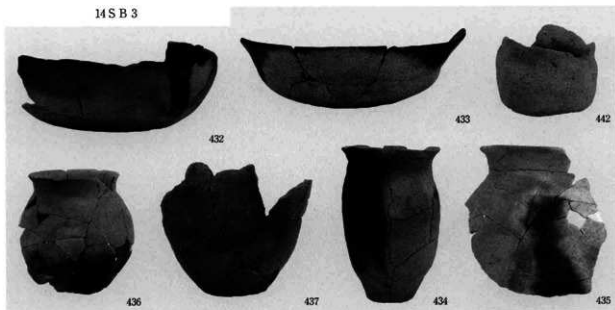
6 SB 3



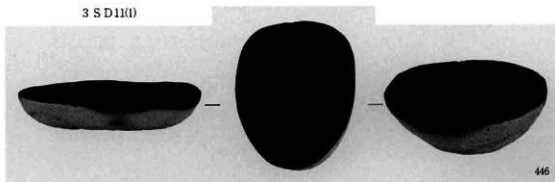
25 S D 15



14 S B 3



3 S D 11(1)



P L 27

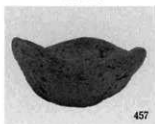
3 S D11②



3 S K 4



25 S D 15



14 S B 4



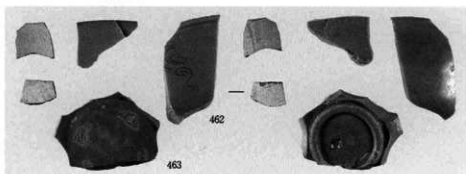
1 S D 1



30 S E 4

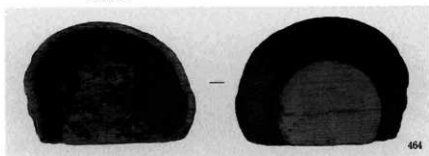


28 S X 1



P L 28

25小穴 1



464

14SB 2



481

28SD 1



482

14検出面



483

3SD11



484

14SB 2



485

30SX 1



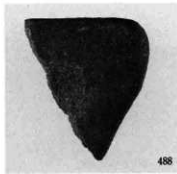
487

30小穴



486

6SB 1



488

30SE 1



P L 29

IV ま と め

稲田南土地区画整理事業地内の遺跡を天神木遺跡・樋爪遺跡・権現堂遺跡と大別したことはⅢ章で述べた。また、権現堂遺跡の北端は稲田徳間土地区画整理事業に伴う発掘調査で見えられた二ツ宮遺跡の南限の遺構であることも前述した。こうして発掘調査成果をみると土地区画整理事業地内には4遺跡が存在することになる。以下これらの遺跡を再整理しまとめたい。

天神遺跡は13区と15区の接点付近の大溝と井戸址を伴った中世の小規模集落遺跡とみることができるが、小穴が長方形配列になる建物址および居住施設等は確認されていない。大溝は北西から南東に蛇行する遺構で、1区の1号溝址に接続する可能性があるものの先行は不明である。溝址の西側に小穴群が展開していないことから区画溝の性格が考えられ、溝形態からは流路・排水機能を有していたものと思われる。なお、この遺跡で中世集落跡の痕跡を窺うと13区南で小穴群を検出している。規格性のある小穴配列にならず遺構に伴う遺物が出土していないため疑問が残る。

樋爪遺跡は住居址等の居住施設の在り方から浅川左岸に展開する弥生時代中期と古墳時代前期の小規模集落跡といえる。ただし、5区の検出面から弥生時代後期の土器群が出土し、南側の各調査区から古墳時代後期の遺構・遺物が確認されており該期の居住施設が存在が予想される。弥生時代後期の遺構の展開範囲は不明であるが、古墳時代後期の展開は19区より東側の範囲にあるものと推測され、権現堂遺跡に住居址が確認されている。この遺跡で注目される遺構は29区のコの字形を呈すると思われる2または3重になる溝址の存在である。全形を露呈することができなかったが、内側の3号溝址東西外法の規模は13~14mを測り、外側の2号溝址のそれは19m前後が推定される大規模なものである。同時期の1号・2号住居址と重複関係にあり、これよりも新しい遺構である。住居址の廃絶の直後に掘られたものと思われる。特に2号溝址からは、高坏や器台等の祭祀土器が投棄された状態で出土しており、内包する小穴群と共に祭祀遺構の性格が強い。焼土等の祭祀行為に伴う痕跡は確認されない。該期土器群は前期中葉から後葉に位置づけられ、古墳時代の土器編年上欠くことのできない資料である。

権現堂遺跡からも各時代の遺物が検出されているが、樋爪遺跡でみられた弥生時代および古墳時代中期の遺構は認められない。代わって古墳時代後期と奈良・平安時代の遺構が登場する。古墳時代前期の住居址は北端域に展開し、後期のものは6区と14区の南側に限定して検出されている。浅川左岸における小規模集落の形成が予想される。奈良時代の住居址は1軒確認したのみで集落範囲は不明である。25区11号溝址から今回調査した中で唯一の灰釉陶器皿の破片が出土している。周辺には平安時代の遺跡が数多くみられる中で平安時代の遺構・遺物が極端に少ない点注意する必要がある。これに代わり他の遺跡であまり例のない中世の集落跡とみられる遺構が27区・28区・30区に展開し、中世遺構を考察する上で貴重な資料を提供した。鏡前状に屈曲する溝址を北に据え、南は大溝で区画し、その中に数棟並びに数穴にわたる建物址を想定させる小穴群が存在する。また数基の井戸や半地下式の建物の存在(30S X 1・2)等から中世集落の中核的位置にあったものと予想する。ただし、建物の規模・配置等が特定できず、出土遺物が井戸址や堅穴状遺構以外に出土していなく成立・消滅時期が知り得ないのは残念である。周辺の中世遺跡の資料増加を待ちたい。

各遺跡ともに小穴(群)・土坑・溝址が点在または散在しているが、人為的行為の結果とみられるものの伴出遺物が少ないものが多く時期や性格が不明の遺構が多い点、今回の調査地の特色でもある。

報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐん てんじんざいせき ひのつめいせき ごんげんどういせき							
書名	浅川扇状地遺跡群 天神木遺跡 樋爪遺跡 権現堂遺跡							
副書名	長野市稲田南土地地区画整理事業地点							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第104集							
編著者名	矢口忠良 小林和子							
編集機関	長野市教育委員会埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004 FAX 026-284-0106							
発行年月日	2005年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
天神木遺跡	長野県長野市稲田字天神木	20201	A-089	36° 40′ 10″	138° 13′ 44″	19981012 / 19990310	4,050㎡	土地区画 整理事業
樋爪遺跡	長野県長野市稲田字樋爪		A-090	36° 40′ 3″	138° 13′ 46″	19990412 / 20000229	15,000㎡	
権現堂遺跡	長野県長野市稲田字権現堂		A-091	36° 40′ 6″	138° 13′ 57″	20000508 / 20001221	5,530㎡	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
天神木遺跡	集落跡	中世	堅穴住居 溝 土坑 井戸 小穴	2 2 2	内耳土器・土器皿・珠洲焼・北宋銭		中世の小集落	
樋爪遺跡	集落跡	弥生時代中期 古墳時代前期 ・中期	堅穴住居 掘立柱建物 溝 土坑 小穴	13 1 3	弥生土器・土師器・ガラス小玉・管玉		浅川縁辺の 小集落	
権現堂遺跡	集落跡	古墳時代前期 ・後期 奈良平安時代 中世	堅穴住居 堅穴状遺構 溝 井戸 土坑・小穴	14 2	土師器・須恵器・灰軸陶器・珠洲焼・青磁・白磁・木器		浅川扇状地 扇端部・浅 川縁辺の小 集落	

長野市の埋蔵文化財第104集

浅川扇状地遺跡群

天神木遺跡
樋爪遺跡
権現堂遺跡

平成16年3月25日 印刷

平成16年3月30日 発行

編	集	長野市教育委員会
発	行	長野市埋蔵文化財センター
印	刷	ほおずき書籍株式会社